

郷土史×公共交通×観光—予土線沿線に目を向けて

2年1組 酒井 知紗 2年1組 曾我 亮太
2年2組 宮本 瑛太 2年2組 木下登桃子
指導者 長尾 起条

1 課題設定の理由

愛媛県宇和島市と高知県四万十町を結ぶ鉄道路線、予土線は近年、乗客・運賃収入の減少(表1)に悩まされている。学生の登下校など地域の貴重な交通手段がなくなってしまう恐れがあるため、早急に解決すべき問題の一つである。そこで、我々は、予土線沿線の文化的な資源と予土線の歴史を結び付けて発信することで、多くの人に予土線の魅力を伝えられるのではないかと考え、本研究を行った。

区間別平均通過人員(輸送密度) および 旅客運輸収入(2024年度)

線名	区間	営業キロ (km)	平均通過人員 (人/日)				旅客運輸収入 (百万円/年)
			2024年度	1989年度	2022年度	2023年度	2024年度
予土線	北宇和島 ~ 若井	76.3	575	220	150	118	40

表1 区間別平均通過人員(輸送密度) および 旅客運輸収入



写真1 宇和島駅に停車中の予土線



写真2 過疎線区のイメージ

2 仮説

- (1) 予土線の魅力を発信すれば乗客が増えるのではないかと
- (2) 観光との連携で乗客を増やすことができるのではないかと
- (3) 予土線活性化のために活動している他の団体と協力すれば、より多角的な視点から魅力の発信ができるのではないかと

3 研究の方法

(1) 実地調査

実際に予土線を利用し、沿線の雰囲気を感じ、自分たちが守ろうとしている予土線への意識を統一する。

(2) 活動への参加

「予土線圏域の明日を考える会」をはじめとする予土線のための活動を行っている組織の活動に参加する。また、予土線についての既存の取り組みについて学び、新たな対策を考える糧とする。

(3) イベントの実施

予土線に関するイベントを沿線・もしくは沿線地域外で行う。このとき、予土線沿線でイベントを行う場合は沿線に人流を起こすこと、それ以外でイベントを実施する場合は予土線の知名度を上げることを目的とする。

4 結果と考察

(1) 実地調査

2024 年 3 月 29 日に宇和島駅から江川崎駅まで予土線を利用し、実地調査を行った。江川崎駅では、道の駅よって西土佐を訪れ、その土地の特産品を調べた。その後松丸駅を訪れ、ぽっぽ温泉や河後森城址を視察し、その土地の観光資源に触れた。

(2) 活動への参加

ア 予土線圏域の明日を考える会・予土あす青春 18 プロジェクト

愛媛県と高知県の高校生が集まり、予土線の将来についての話し合いを行う。

- ・予土あす青春 18 プロジェクト（以下「予土あす」） 高校生シンポジウム(25. 2. 11)
- ・予土あす 高校生シンポジウム (26. 2. 11) (予定)

予土線に興味がある大学生と予土線に乗車し、魅力を広める。

- ・愛大生との交流(24. 6. 8)

イ 南予地方局（予土線利用促進対策協議会）

仮装をして、近永駅からの貸切列車で沿線地域を巡るツアー

- ・予土線ハロウィン列車(25. 10. 26.)

ウ その他（ブーメランカレッジ等）

ブーメランカレッジの予土線ゼミ生、アートプロジェクト関係の大学生と交流。アートプロジェクトに向けてのロケハン。

- ・ブーメランカレッジ・大学生との交流(25. 8. 10)
- 予土あすとしてブースを出展し、パネル展示やグッズ展示を行う予定。
- ・ワクジマフェスへの参加(26. 3. 22) (予定)

(3) イベントの実施

2025 年 11 月 4～9 日に予土あす主催で「予土あす青春★18 第 0.5 回アートプロジェクト」を実施し、ガイドツアーや、予土線周辺地域のマップ、おもちゃの予土線の作成を行った。マップは、地域の歴史的資源を掲載し、ツアー参加者へ配布した。おもちゃの予土線は、鉄道玩具を使用し、手作りの駅名看板、ペーパークラフトによる予土線の車両の作成などを行い、宇和島駅から窪川駅間をデフォルメし、再現した。



写真 3・写真 4 アートイベントにて

写真 5 ハロウィン列車イベントにて

(4) メディアへの影響

ア 予土線ハロウィン列車：愛媛新聞社・テレビ愛媛・南海放送

イ 「予土あす青春★18 第 0.5 回アートプロジェクト」：NHK

上記のイベントの際、各メディアによる取材を受け、新聞やテレビにて発信が行われた。

5 まとめと今後の課題

実験(1)～(3)から、「高校生が地域のために動いている」という話題性によって、予土線の利用客がイベントを通すことで平常時より微増した。だが、発信力の点において難がみられた。今後の課題としては、SNS を使用しての発信の仕方の再確認、フォロワー以外の人々への発信方法の考案が上がった。今後はさらなる SNS の活用や他団体との活動などを通して、予土線の活性化への道を探していくとともに、後継の育成を行っていくことも求められる。

参考文献

JR 四国 区画別通過人数（輸送密度）および旅客輸送人数（2024 年度） jr-shikoku.co.jp